



## 命に関わる大出血が起きたらどうしよう…?

自己血貯血をオススメするのは ↓ こんな人!

- 分娩時に出血が多そう(病気)
- 血液が集めにくい(特殊な血液型)
- 前回の出産で出血が多かった

フツ〜に 他人からの輸血! ジャダメなの?

予測される輸血 不測の輸血

前置胎盤 子宮筋腫多発	RHマイナス型 不規則抗体陽性
同種血輸血(他人からの血液)だと... 不適合輸血 ウイルス感染などのリスク	適合する血液を集めるのが困難

そうならないようにより安全な自分の血を事前にとっておいて、輸血に備えます

ナルホド★ 保険であな!

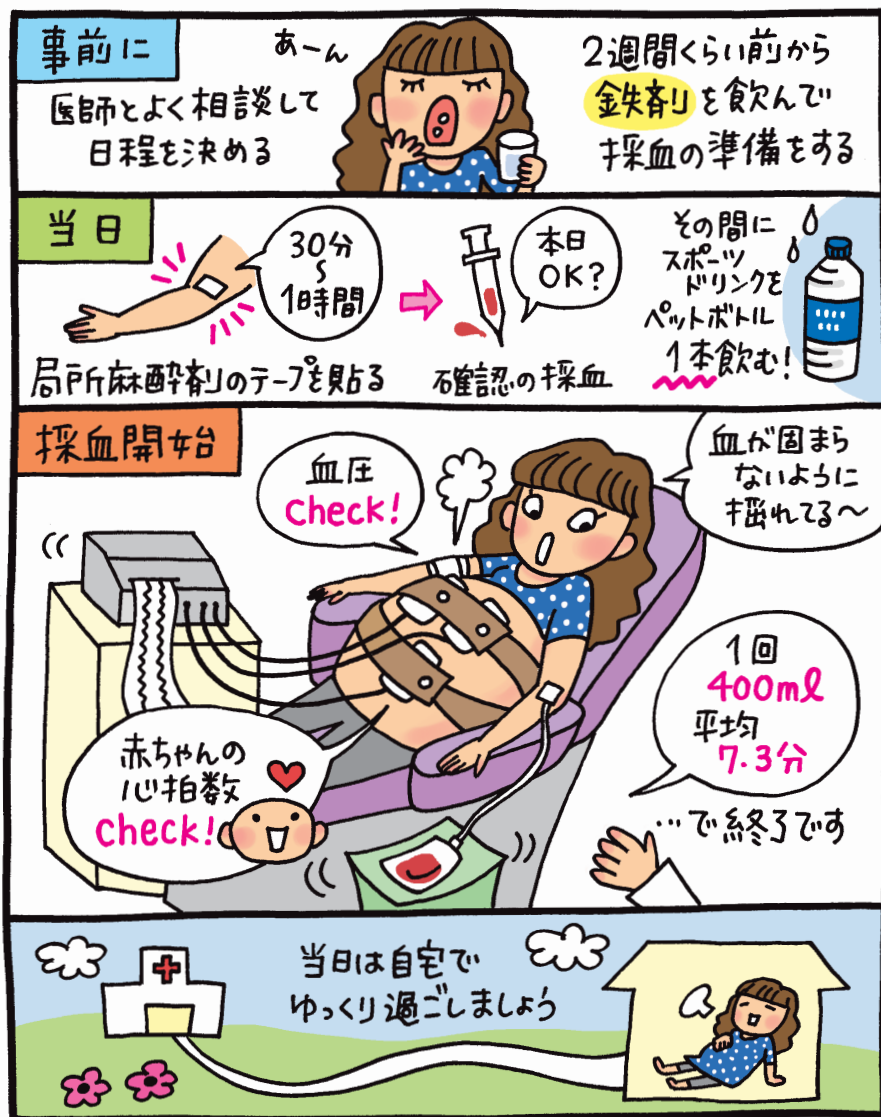
## 分娩前に自分の血を保存し、大量出血に備える方法があります

- 分娩(帝王切開も含む)において、輸血が必要になるケースは多くありません。ただ、分娩時の出血はいつ起こるかわからないという側面があり、一旦起こってしまうと大量出血につながりやすく、生命に関わることがあります。しかし、他人の血液を輸血する「同種血輸血」には、不適合輸血やウイルス感染といったリスクがあり、必ずしも安全であるとはいえません。
- 特に「前置胎盤」、「子宮筋腫合併妊娠」などは大量出血のリスクがあります。また「RH マイナス」などの特殊な血液型や、他人の血液を受け入れない「不規則抗体陽性」などは、大量に出血した際の血液の確保が困難です。このような場合に、ご自身の血液を事前に採血し、術時に使用するのが「自己血貯血」です。
- 自己血貯血の副作用として報告されているものは以下のとおりです。
  - 採血の際の血管迷走反射(針が血管に刺さった刺激で血圧低下、心拍低下をおこすこと)
    - 返血する血液の細菌汚染による感染の問題
    - 母体貧血による胎児心拍への影響や胎児の貧血
- 当センターでは上記の副作用について、自己血貯血を行う妊婦さんの協力をいただき5年間の臨床研究を行いました。結果は以下のとおりです。
  - 約3%の方に発現しましたが、再発は少なく、いずれも少し休んでいただいた後、当日に帰宅できる程度の軽度のものでした
  - 現在のところ認めていません
  - 胎児心拍モニター上、異常は認められませんでした



## 血液はどのくらい採るの？ 貧血になりそうだけど…？

### 2週間前から鉄剤を服用し、 1回につき400mlを採血します



- 当センターでは、自己血貯血の副作用を防止し、症状を早期に発見・対処するために以下の対策をとっています。
  - ①採血の際の血管迷走反射を防ぐため、貯血採血の約1時間前に、穿刺予定部位に局所麻酔剤のテープを貼付し、針を刺す痛みを緩和する
  - ②細菌感染を防ぐため、穿刺部位は十分に消毒し、不要な返血は行わない
  - ③貯血中は母体血圧測定と胎児心拍数モニタリングを行い、異常があれば中止
- 自己血貯血を行う予定の妊婦さんは、通常の妊婦健診とは別に水曜の午後の自己血外来で受診していただきます。採取した血液の保管期限は約5週間ですので、帝王切開分娩で手術予定が決まっている方は、その日程から逆算して貯血を開始します。自然分娩予定の方は妊娠 35 週頃からの貯血となります。
- 自己血採取の約2週間前から鉄剤の内服を開始し、貯血採血に備えます。1週間に1回 400ml を貯血します。目標の量によって2回、または3回採血します。

#### 自己血外来受診の流れ

